

# 日帰りのバスハイクを実施

## 広島市総合リハビリテーションセンター自立訓練施設

11月8日(火)に外出訓練の一環として一年に一度のバスハイクを行いました。今年もリフト付きの中型バスを貸し切り、参加者14名と職員8名で広島市佐伯区にあるミスズガーデンでボーリングを行いました。

久々にボーリングをされる方が多く、始めはどのように投げたら良いかと不安に思われている方がほとんどでした。しかし、試行錯誤を重ね、投球フォームを工夫され、コントロール良く真っ直ぐにボールを投げられる方、回転をかけてきれいなカーブでピンを倒す方、ガターを防止するためのバンパーという装置にあえてボールを当ててピンを狙う方など、スコアに一喜一憂されていました。ストライクやスペアが出ると、ハイタッチするなど、盛り上がりおられました。

昼食はバイキング会場で、好みのメニューを各自で取り、美味しくいただきました。おなかいっぱいと言われながらも、しっかりとデザートをおかわりされている方もいらっしゃいました。

今年のバスハイクは、スポーツの秋に加え、食欲の秋も感じていただけただけ一日になりました。皆様も身体を動かす楽しみごとの一つに、ボーリングを加えてみてはいかがでしょうか。



### クリスマスコンサート

第3回クリスマスコンサートを実施いたします。今年も職員&修道大学の学生による迫力あるブラスバンドをお楽しみ下さい。おもしろい企画も用意しております。

**日時:12月18日 14時**  
**場所:玄関前ホール**



### 利用者様意見箱設置

当センターでは利用者様のご意見をいただくため、意見箱を設置しております。設置場所は1階・2階病棟の食堂、自立訓練施設事務室と支援員室横及び正面玄関を入ってすぐ右の筆記スペースです。いただいたお声は今後のセンター運営の参考にさせていただきます。回答については正面玄関前の掲示板に掲示させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。



正面玄関横の筆記スペース：防災センターの隣に設置しています



自立訓練施設事務室  
自立訓練施設の玄関を入ってすぐ左に設置しております

### 12月～3月行事食

- 12月31日 大晦日
- 1月1～3日 お正月
- 1月9日 成人の日
- 2月3日 節分
- 2月14日 バレンタイン
- 3月3日 ひな祭り
- 3月20日 春分の日



※食事形態によっては対応できない場合があります。ご了承ください。※写真はイメージです。



# —こころ通信—

## 広島市総合リハビリテーションセンター

〒731-3168広島市安佐南区伴南一丁目39番1号

TEL (082) 848-8001  
FAX (082) 848-8003  
E-mail souriha@city.hiroshima.jp

### 理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな生活ができるよう、良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

Topics 理念・基本方針 利用者様の権利 事務長コラム  
委員会紹介 バスハイク クリスマス会案内 意見箱 行事食

### 基本方針

- 1 中途障害者の皆様の社会復帰や社会参加を促進するため、相談・評価から医療・訓練、就労援助までのリハビリテーションサービスを一貫した計画のもとに提供します。また、保健・医療・福祉の関係機関と連携を図り、地域におけるリハビリテーションを支援します。
- 2 利用者様一人ひとりの立場に立つて悩みや希望を理解し、誠意を持った細やかな対応と良好な環境整備に努め、個人の権利を尊重したサービスを提供します。
- 3 病院は、専門スタッフが回復期を中心としたリハビリテーションにチームで取り組み、最適のリハビリテーション医療を提供します。また、インフォームド・コンセントを徹底し、安全で信頼される医療を提供します。
- 4 自立訓練施設は、家庭や職場、地域での生活を再構築するための通過型施設として、最適な相談・訓練等のサービスを提供します。

### 利用者の皆様の権利

あなたには、個人として尊重される権利があります。  
あなたには、良質で安全な医療・福祉サービスを平等に受ける権利があります。  
あなたには、あなたの症状や障害の状態、リハビリテーション計画について十分な説明と情報提供を受ける権利があります。  
あなたには、リハビリテーション計画をあなたの意志で選択し、決定する権利があります。  
あなたには、診断やリハビリテーション医療について、他の医師の意見を聞く権利があります。  
あなたには、プライバシーが守られる権利があります。

### ● 事務室は縁の下の力持ち！？

広島市総合リハビリテーションセンター  
事務長 佐々木 正裕



総合リハビリテーションセンターは、身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院、自立訓練施設の3つの組織で構成されており、財務面では、更生相談所や自立訓練施設のように官庁会計を行っている施設と、病院のように企業会計を行っている施設とが一緒になっている施設です。

このことから、官庁会計である更生相談所や自立訓練施設の運営に当たっては、市の財政も厳しい折、最小の経費で、最大の行政効果を発揮させる必要があります。特に、自立訓練施設については、限られた財源の中で、いかに利用者の皆様にとって魅力のある訓練メニューを組むことができるかが重要となっています。

一方、企業会計の病院については、企業を経営する感覚を持つことが必要であり、患者様へのサービスを低下させることなく、収益の拡大、経費の削減に努めていく必要があります。

収益については、医療職員の頑張りにより、開設初年度の20年度65.5%だった病床利用率は、昨年度から96%前後を維持するとともに、充実したリハビリテーションサービスを提供することにより、初年度の約2倍の収益をあげるところまで来ました。この場を借りて感謝いたします。今後は、病床利用率が、100%近いものとなっているため、利用者の皆様に影響のない範囲で、ジェネリック薬品の採用や、節電を含む省エネに取り組むことなどにより、経費削減に努めていくことが当面の課題ではないかと感じています。職員の皆様も、日頃から一人

ひとりが常にコスト意識を持ち、効率的な業務の遂行に努めていただくことをお願いいたします。ムダを省けば、その分を人材確保や医療機器の購入に回すことができます。

人事面では、医療や福祉の専門職が多数を占めているため、市の他部門とは異なり、定期的な人事異動による補充等が行えないことから、各部署において人材を確保するというところに重点を置いています。そのため、開設当初の職員は、臨時職員の方を含めても141人しかいませんでしたが、これまでの運営状況を踏まえ、現時点(10月1日)では、210人へ拡充してきています。必要な人材の確保という観点では、厳しい財政状況から、社会情勢の変化や医療・福祉制度の変革に迅速・柔軟に対応できず、まだ充分とは言えない状況であるという、もどかしい思いを感じています。職員が安心して働ける環境をつくるのが大事であり、職員の満足度を高めることが、患者・家族・利用者の皆様への貢献につながり、最終的には各々の幸せになると信じています。

心と身体に余裕がなければ、他の人にやさしくできません。今後とも、ワークライフバランスを念頭においた労務管理や働きやすい職場環境整備に努めていきたいと思っております。

最後に、職員の皆様へ  
『自分の仕事を通して、この世界に幸せな人をつくりだせているか?』

時には、自分自身に問いかけてみましょう!



# 特集

今回から数回にわたって、院内で活躍する委員会活動を紹介しします。今誌はリスクマネジメント委員会、地域連携委員会、臨床研修委員会、医療ガス安全管理委員会です。

## リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会は「各部門からの代表が集まって、医療の提供及び障害者支援事業の実施に関して、事故の予防・再発防止対策および事故発生時の適切な対応を図ること」を目的に設立されています。

医療行為は、思わぬ事から医療事故に発展する可能性を秘めています。リハビリテーションを行う当院においても例外ではありません。そこで、当委員会では、患者さまに安心・安全な医療を提供するため、日々活動しています。

当院で実際に起こったが、大事には至らなかった「ヒヤリとかハッとした事例」を集めて分析しました。その結果によると、患者様の転倒・転落や、薬に関する事例が比較的多いです。当委員会ではこの対策として、小グループを作り集中的に活動し、そのような事故を未然に防ぐ取り組みをしています。以下に、活動内容を紹介します。

### 内服事故予防チーム

薬剤師をはじめとし、医師、看護師、リハビリ療法士、検査技師、歯科衛生士などの他職種のチームでの薬の事故防止に取り組んでいます。

当院から出される薬は、基本的に一袋にまとめてお渡ししています。これは、飲み間違いを防止するためです。高齢の方や、認知症のある方、高次脳機能障害のある方などは、服薬管理が難しい場合があります。そういう方々には、看護師がお薬をお渡しするようにしています。腕章をつけた看護師が患者様の名前を確認し間違いのないようにお薬を配り、事故防止に努めています。



この腕章をつけた看護師がお薬を配っています

### 転倒・転落予防チーム

医師、看護師、リハビリ療法士、事務員、相談員というメンバーで転倒・転落の事故防止に取り組んでいます。

私たちは、同じような転倒・転落が起きないように、現状を分析して各職場に情報を発信しています。昨年度の分析では、午前6時～8時の時間帯で、ベッドサイドにおける転倒・転落が多いです。そこで、他職種による話し合いの時間をもち、時には、センサーマットを用いて、転倒の早期発見に努めています。



環境設定をしています



私が委員長です

## 医療ガス安全管理委員会

医療ガスの使用にあたっては、医療科、看護科、リハ科の職員等により、医療ガスのアウトレットが緊急の場合でも安心して支障なく使えるように、毎日欠かさず全ての設置場所を確認し、安全な管理に努めています。

平成23年度は、

- ① 医療ガスの安全な管理を行うため、看護科から1名(豊看護師)が、「特定高圧医療ガス(酸素)取扱主任者資格」の検定を受け合格するなど、医療ガスの取扱いに関するより深い知識の習得にも努めています。
- ② 放置され老朽化した携帯用医療ガスボンベによる爆発事故等を防止するため、新たに点検管理手順を作成するとともに各病棟にボンベの転倒防止のためのラックを設置しました。
- ③ 医療ガスの管理をさらに充実させるために看護科の委員数を2名から3名に増員しました。今後も、医療ガスの取り扱いについて現場の意見と専門的な見地から検討を行い、安全な医療ガスの管理の推進に努めていきます。

私が委員長です



## 地域医療連携委員会

地域医療連携委員会とは、当センターと地域との医療連携の推進を図る委員会です。委員会のメンバーは加世田副院長を委員長とし、総合相談室の相談員、看護科の看護師長、看護師、リハ科の理学療法士、作業療法士、更生相談所の保健師、事務室事務員など、様々な職種により構成されています。

連携とは、急性期からの受け入れを円滑に行い、退院後の地域での生活へとつなげていくことです。その橋渡しとなる回復期病棟は身体機能の最大限の回復を目指した機能訓練と、地域での生活を想定した治療を実施し、一定の入院期間の中で退院へと進めていきます。

連携の手段として、情報を一元化した脳卒中地域連携クリニカルパス(以下、「パス」という。)を活用しています。使用しているパスは3種類あり、広島市民病院・県立広島病院・赤十字原爆病院・マツダ病院などを管理病院とした「広島脳卒中地域連携の会のパス」、安佐市民病院を管理病院とした「安佐地区連携パス」、広島大学病院などを管理病院とした「県共用パス」です。平成23年10月末までに使用されているパスは広島脳卒中地域連携の会は273件、安佐地区連携パスは30件、県共用パスは24件と積極的に活用されています。

パス運用は紙だけでなく、それぞれのパスにかかわる病院が、年3回の交流を持っています。交流の内容は、症例検討や講演会など様々ですが、お互いに顔の見える連携を目指しています。

加えて、当センター主催の地域連携研修会を毎年1回開催しています。今年度は、「訪問看護でできる摂食・嚥下リハビリテーション～摂食・嚥下障害の基礎知識から実践できるアプローチまで～」というテーマで当センターの医療科吉田部長(歯科医師)及び看護科川端看護師(摂食・嚥下障害看護認定看護師)を講師として行いました。当日は30余りの訪問看護事業所から41名の参加者を迎えて開催(写真)することができました。今後も多くの医療機関のスタッフの方と共に勉強し、意見交換する場を持つことで、お互いに気軽に相談できる環境を作り、より良い医療を提供し対象者の方にサービスが還元できるように頑張っていきます。

さらに今年度は、前述のパス以外に退院された方が生活される地域(生活期)との連携の会を立ち上げ、今後のさらなる連携を推進していきます。



私が委員長です



## 臨床研修委員会

臨床研修委員会は当センターにおける臨床研修の適正かつ円滑な実施をはかるために設置され、臨床研修プログラムの作成運用及び実施、研修医の管理・育成などの審議を行う委員会です。平成22年度のセンターの臨床研修受け入れの実績は、医療科49名(広島大学医学部・薬学部合同早期体験実習、広島デンタルアカデミー)、看護科32名(広島大学)、リハビリテーション科15名(広島大学、県立広島大学、西九州大学、広島医療保健専門学校、広島国際大学、YICリハビリテーション大学校)総合相談室207名(広島市立看護専門学校、広島市医師会看護専門学校)でした。当センターがリハビリテーション医療に関わる人材の育成に貢献できるように、今後もサポートしていきたいと考えています。



私が委員長です

皆様、日頃の多忙な業務の中、ご苦勞様です。次回は教育研修委員会、倫理委員会、放射線安全委員会、感染委員会を持集する予定です。